

平成29年「土砂災害・全国防災訓練 ～普段の備えが、命を守る～」実施事例

・平成29年7月九州北部豪雨では、訓練の実施が避難行動につながり、被害の軽減が図られた事例があった。

多くの住民参加による実践的な避難訓練 (福岡県東峰村)

【訓練のポイント】

- ・住民自らの判断で避難できるよう、土砂災害に関する避難訓練を実施(3年継続)。
- ・避難行動要支援者名簿を作成し、支援者(住民等)による支援体制構築。

①【土砂災害に関する避難訓練の参加状況】

(東峰村人口(H29.5現在)約2,200人)
平成29年6月25日 約1,050人(人口の約半数)

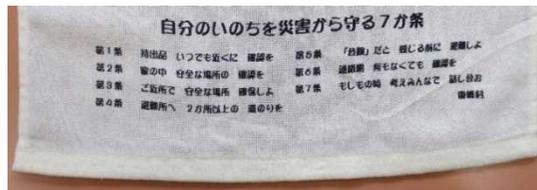
- ・大雨、警報等発令など付与し、避難勧告など聞いたうえで避難実施。
- ・地区ごとに避難行動要支援者への避難支援などを考える会議を開催。



住民避難訓練



避難完了の目印にも



「避難7か条」を書いた「避難タオル」を各戸配布

②【避難行動要支援者名簿の作成と訓練】

- ・各地区単位で「避難行動要支援者支援計画」を作成。
- ・訓練においては、支援者が安否確認避難所への誘導・補助を実施し、確認

避難行動要支援者支援計画				地区名
				小組合名等
				避難の場所
避難に助けが必要な高齢者等	あらかじめ決めたサポートをする人	緊急時の連絡先(相手先氏名・電話)	備考	
氏名	電話番号			



【避難事例:避難行動と災害の経緯 東峰村屋椎地区】 (H29.7九州北部豪雨現地調査 住民聞き取り)

H29.7.5

15:00過ぎ: 職場(屋椎地区下流約6km)の雨の様子をH24年豪雨を超え、自宅と近所の様子を確認するため職場出発。

- ・自宅は裏山が無いので、近所の方が避難していた。逃げ遅れが無いが、付近を見回り声がけ後帰宅。

16:30頃 : 土石流が発生

- ・土石流のあと、水の流れが無くなり、上流で溜まると危険と思い、近所の人と岩屋神社社務所に移動し被害を免れた。

【住民意見】

防災訓練により、災害時に近所の人への声かけを意識できた。

平成29年「土砂災害・全国防災訓練 ～普段の備えが、命を守る～」の実施状況

・平成26年8月の広島市での土砂災害を教訓に、全国の土砂災害警戒区域等の住民に対し、出来るだけ多くの参加を呼びかけ、避難訓練、情報伝達訓練等を実施。平成29年は、**全国で過去最高の約164万人が参加**しました。

平成29年度総合防災訓練大綱(中央防災会議)より
6月(土砂災害防止月間)を中心に、関係地方公共団体等と連携し、全国の土砂災害警戒区域等で、住民参加による避難訓練、情報伝達訓練等を実施する。

- ◆実施日 : 平成29年6月4日(日)・土砂災害防止月間(6月) ほか
- ◆実施主体 : 市町村、都道府県、消防庁、国土交通省
- ◆参加機関 : 住民、自主防災組織、砂防ボランティア、警察、消防、市町村、都道府県、国等
- ◆重点的な取組 : 要配慮者、要配慮者利用施設の管理者、避難行動要支援者等による避難訓練

主な訓練実施事例

- 多くの住民参加による実践的な避難訓練
- 要配慮者、要配慮者利用施設の管理者、避難行動要支援者等と連携による避難訓練
- 住民主体で作成したハザードマップを活用した避難訓練
- 土砂災害専門家による土砂災害に関する学習会 など



作成した手作りハザードマップを用いた訓練(静岡県藤枝市)

要配慮者利用施設の避難訓練・土砂災害専門家による土砂災害に関する学習会(愛媛県新居浜市)

「土砂災害・全国統一防災訓練」参加者数(年間)の推移

